

P7-45 免疫法による便潜血キットの有用性 -ラット、イヌでの検討-

○山崎 尚子、真子 智美、浜田 悦昌、堀井 郁夫
ファイザー (株)

Usefulness of fecal occult blood kit by the immunity method -Examination in rats and dogs -

○Naoko YAMASAKI, Tomomi MAKO, Yoshimasa HAMADA, Ikuo HORII
Pfizer Global Research & Development

【目的】便潜血検査は、消化管の炎症などによる出血性病変のスクリーニング検査として重要な検査である。便潜血検査は化学法と免疫法があり、実験動物では化学法が汎用されているものの、食物などの影響を受けることから免疫法に比べ特異性が低いといわれている。そこで、今回、ラットとイヌにおける市販の便潜血キットの有用性について検討を行った。

【方法】ラットおよびイヌの糞便および給餌飼料について便潜血測定を行った。ラットでは、免疫法としてパナテスト®ラットヘモグロビン (パナファームラボラトリーズ) を、化学法として便潜血スライドシオノギII B法:グアヤック法 (シオノギ製薬) を用いた。但し、パナテストはラットの尿中ヘモグロビン測定キットであるため、糞便および飼料を検体希釈液で溶解し、その上清を試料として用いた。イヌでは、免疫法としてテストントイヌ便潜血 (ビーエル) を、化学法としてラットと同様のキットを用いた。

【結果】いずれの方法もラット又はイヌの溶血試料で濃度依存的な反応が認められた。しかしながら、ラットについては、パナテストでは糞便中のヘモグロビンが経時的に酸化分解され正確な値が得られないため、新鮮便を用いることが重要であると考えられた。便潜血スライドでは正常ラットの糞便や飼料でも陽性反応を示すことが明らかになった。一方、イヌの正常糞便については、テストントでは全て陰性、便潜血スライドでは23/30例で陰性、残りの7/30例が擬陽性を示した。なお、イヌ飼料に対しては、両法とも陰性であった。

【結論】イヌについてはテストント (免疫法)、便潜血スライド (化学法) とともに便潜血反応に用いることができることが明らかになった。但し、便潜血スライドについては擬陽性反応に留意する必要性が示唆された。ラットについてはパナテスト (免疫法)、便潜血スライド (化学法) とともに実用性の判断にはより詳細な検討が必要と考えられる。